

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
分担研究報告書

非ウイルス性肝疾患の多い沖縄県で活動する肝炎医療コーディネーターへの  
支援に関する研究

研究分担者 前城達次 琉球大学病院第一内科 特命講師

研究要旨

【背景】肝臓病の原因としてウイルス性よりも非ウイルス性が多い沖縄県で活動する肝炎医療コーディネーターに対する支援に関して、その方法や内容を検討した。

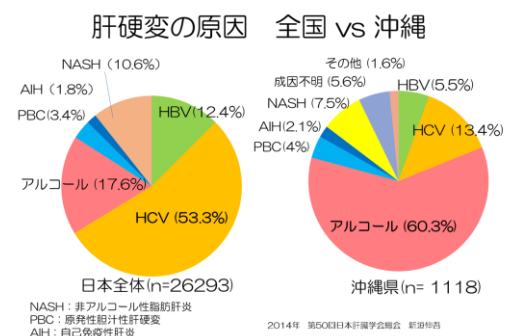
【方法】1) 沖縄県で活動する肝炎医療コーディネーターのうける相談内容を調査した。2) 相談内容を把握した上で拠点病院肝臓専門医からの支援として情報提供の方法や支援策を検討した。3) 肝炎医療コーディネーターが活動する上で各種資料に関して意見聴取を行った。【結果】沖縄県内で活動する肝炎医療コーディネーターの受ける相談として HBV や HCV と大きな差はなく非ウイルス性肝疾患の内容が多かった。その結果を踏まえて拠点病院肝臓専門医が行う支援としてフォローアップ研修での講習も検討したが新型コロナ感染拡大のため開催できなかった。そのため内科医と精神科医が共同で作成した資料を配布する段階である。その評価などは次年度に行う予定である。また生活習慣病が非常に多い離島での肝炎医療コーディネーターへの支援として相談を受ける際に拠点病院専門医も同席しその相談事業を支援した。さらに同時に腹部エコーを実施し、相談後の血液検査やエコー結果に効果が得られるかどうか、検討する予定である。肝炎医療コーディネーターが実際に使用するポケットマニュアルなどに関して意見聴取したところ、特に日常生活における情報がさらに充実されることを希望された。

【結語】沖縄県の肝炎医療コーディネーターの非ウイルス性肝疾患への対応の必要性が認められ、その支援策を検討すべきであると考えられた

A. 研究目的

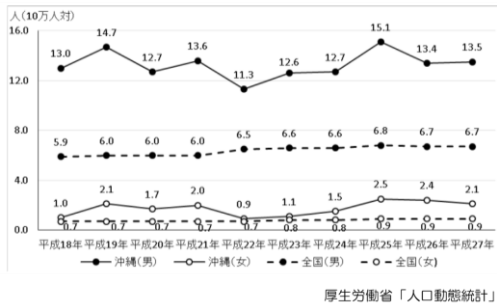
沖縄県における肝臓病の疫学的特徴として HBV 感染率は高率であるが、その遺伝子型の違いによるその自然経過が大人しく、肝硬変へ進行する割合が低率である。また HCV 感染率は HBV とは逆に低率であるなどウイルス性肝疾患で肝硬変へ進行する割合は低い。一方、近年増加傾向を示しているのが非アルコール性脂肪性肝疾患であり、肥満者の割合が高率であること、また中年期の生活習慣病に関連した死亡率が高値で

ことと相まって非アルコール性脂肪性肝疾患への対策が重要となっている。



さらに重要なことはアルコール性肝疾患の割合が高率であり、その死亡率も高い。

アルコール性肝疾患による死亡率（人口10万人対）



このような肝臓病の特徴がある沖縄県における肝炎医療コーディネーターの役割は肝炎ウイルス対策のみではなく飲酒を含む生活習慣関連肝疾患に関連した対応が必要となり、他の地域とは違う対応が求められている。今回は沖縄県で認定された肝炎医療コーディネーターが受けている相談内容や他の問題点に関して検討し、肝疾患診療連携拠点病院がウイルス肝炎の他にもどのような支援ができるのか、またその効果を検討することとした。

## B. 研究方法

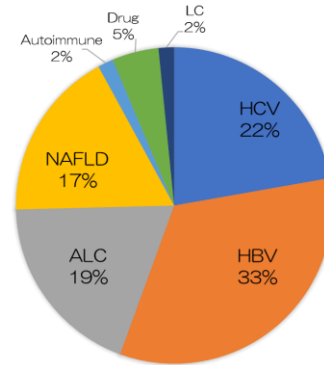
- 1) 沖縄県内で認定されている肝炎医療コーディネーターの通常業務内での相談を受ける内容を調査し、非ウイルス性肝疾患の割合を確認する。
- 2) 非ウイルス性肝疾患に関する拠点病院の支援として希望する肝炎医療コーディネーターへの情報提供を行う。
- 3) また現在まで配布されている資料の使用頻度やその利点、改善点などを確認する。

## C. 研究結果

最終的には137名の肝炎医療コーディネーターから結果を得た。しかしその中でも肝炎医療コーディネーターとして満足して活動できているのはほとんどなく、さらに活動している時間帯の割合としても全仕事量の中で25%程度のかたが多かった。そのような状況の中で相談を受ける内容としてはHBV33%、HCV22%、ALC19%、NAFLD17%、その他であり、ウイルス性肝疾患と同様に飲酒

を含めた生活習慣病に関連した肝疾患に関する相談を多く受けている状況であった。

肝炎医療コーディネーターが受ける相談内容（複数回答）



2) 非ウイルス性肝疾患に関して拠点病院専門医から肝炎医療コーディネーターへの支援として、フォローアップ研修や各地域の施設での講習会を検討した。しかし今年度は新型コロナウイルス感染のため全体集合でのフォローアップ研修は開催できず、感染が一時的に落ち着いた時期に2回にわたり講習会と、事例検討会を行った（宜野湾市）。また1地域のみでの開催であったため今年度は内科医とアルコールを専門とする精神科医と合同で動画資料を作成したが完成が2021年2月末日のため、今後これらを配布し視聴して頂く予定である。その内容に関する反応や効果は次年度に調査する予定とする。また離島における支援として、相談内容のほとんどが生活習慣病に関連している離島において拠点病院感想専門医が肝炎医療コーディネーター、相談者と一緒に情報を共有して肝炎医療コーディネーターの相談業務を支援した。2020年12月に一回目として相談と腹部エコー検査を実施。2021年3月に同じ相談者の肝機能検査、腹部エコー検査のフォローを行う予定である。

拠点病院の肝炎医療コーディネーターへの支援  
(非ウイルス性肝疾患)

- ① フォローアップ研修での非ウイルス性肝疾患に関する情報提供
- ② 希望する施設における非ウイルス性肝疾患に関する情報提供
- ③ アルコール性肝疾患に関する内科医と精神科医によるDVD資料の作成配布
- ③ 離島での肝炎医療コーディネーターへの支援  
相談者とコーディネーター専門医の3者で情報を共有し相談を受ける

3) 現在まで肝炎医療コーディネーター支援に関する資料も作成されているが、それらに感想としては、拠点病院の肝炎医療コーディネーターからポケットマニュアルについて意見があった。患者さんへの対応として口頭で行うことが多かったことや、病棟などでの相談内容としては日常生活に関することが多かった、逆にポケットマニュアルに含まれる内容は医師から話されることが多かったので、頻回に使用することはなかったとのこと。従って相談者の日常生活に関すること、たとえば食事や運動、便秘対策などの内容も充実されることを希望するご意見があった。一方肝臓専門医が勤務していない(非常勤のみ)施設の肝炎医療コーディネーターとしては頻回に使用してある程度はマニュアルを参照せずに対応が可能になったが、自己学習にも利用できていることが利点であると。さらに希望する点としては生活習慣関連情報や難病、各種スコア関連の内容が含まれたら助かるとの意見があった。以上よりウイルス性でも重要ではあるが、生活習慣に関連する情報の充実が望まれていると思われた。

#### D. 考察

沖縄県では、肝疾患の要因として、飲酒を含む生活習慣に関連した肝疾患が多く、肝炎医療コーディネーターの活動としては肝炎ウイルスに関する相談のみではなく非ウイルス性肝疾患に関する対応も重要である。

以前からフォローアップ研修の内容や事例検討でも非ウイルス性肝疾患を要望されることが多く拠点病院専門医としてもどのような支援が有効か検討すべきであった。今年度は新型コロナウイルス感染で、一部の支援の検討ができてないが、次年度は今年度に行った支援に関する反応や効果を検討することが重要と考えられる。

#### E. 結論

沖縄県の肝炎医療コーディネーターの非ウイルス性肝疾患への対応の必要性が認められ、その支援策を検討すべきであると考えられた。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

#### G. 知的所有権の取得状況

なし

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

